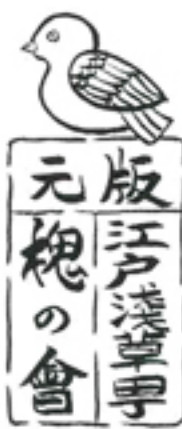


六月 (水無月) 一、二十八、二十九 お富士様の植木市	五月 (皇月) 五日 宝の舞 十六、十八 三社祭 三十一日 お富士様の植木市	四月 (卯月) 浅草春の観光祭 八日 釈尊誕生日(花まつり) 十三日 白鷺の舞	三月 (弥生) 十八日 浅草観音示現会金龍の舞 廿五、廿六 堂上げ堂下げ式三社祭巡行	二月 (如月) 三日 節分の日 八日 針供養	一月 (睦月) 浅草名所七福神もうで
十二月 (霜月) 八、二十日 酉の市 十五日 七五三 十七、十九日 歳の市 三十一日 除夜の鐘(井天山)	十一月 (神無月) 三日 東京時代まつり 八、二十日 酉の市 十五日 七五三 十七、十九日 歳の市 三十一日 除夜の鐘(井天山)	十月 (長月) 浅草秋の観光祭・菊花展 一日、十一月十六日 江戸開府四百年記念・奥山風景 二日、二十六日 平成中村座 十八日 金龍の舞・菊供養	九月 (文月) 九、十日 四万六千日 二十六日 隅田川花火大会 二十五日 万霊燈籠供養会 二十六日 台東区新能 三十日 浅草サンバカーニバル	八月 (葉月) 九、十日 四万六千日 二十六日 隅田川花火大会 二十五日 万霊燈籠供養会 二十六日 台東区新能 三十日 浅草サンバカーニバル	七月 (水無月) 浅草秋の観光祭・菊花展 一日、十一月十六日 江戸開府四百年記念・奥山風景 二日、二十六日 平成中村座 十八日 金龍の舞・菊供養



お問い合わせ
 〒111-0032 東京都台東区浅草1-17-12-3F
浅草槐の會事務局
 URL <http://www.asakusa.gr.jp/>
 e-mail info@asakusa.gr.jp
 発行 平成15年7月10日 vol.7

慶祝江戸開府四百年

The Door Step to Japan

vol.7
夏秋号



日本の扉 浅草

保存版

浅草槐の會

ASAKUSA



槐の会の仲間たち

浅草槐の会(あさくさえんじゅのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇三十六年(六百二十八年)三月十八日、隅田川で網得され、槐の木の下に安置された(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから「浅草槐の会」と称しました。

浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで御紹介いたしておりますが、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡、を中心に「日本の扉 浅草」を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策の役に立てば幸いです。

浅草槐の會

《「浅草奥山」と江戸開府四百年記念・奥山風景》

浅草寺本堂の北側から西側一帯は、通称「奥山」と呼ばれて親しまれ、江戸時代から居合抜きの長居兵助、曲手毬の菊川国丸、曲独楽の松井源水、講釈士の深井志道軒などの芸人が妙技を演じ、江戸町民の娯楽の場として栄えていました。平賀源内著の『風流志道軒伝』は、江戸庶民社会の夢物語として錦絵ばかりでなく、歌舞伎や芝居の出し物にも演出流用され、さらに、現代のディズニーランドのような大衆娯楽街「浅草奥山」の細工出し物である生人形としてリアルに立体化されました。それらが、多くの引札や錦絵になって人々の手から手へと渡り、全国津々浦々にまで「浅草奥山」の楽しさが知れ渡っていきました。



明治に入って浅草公園が造成され、多くの見世物小屋は瓢箪池を中心とした公園地第六区に移転し、新しい活動写真館や興行場として生まれかわりました。明治二十三年には、日本初のエレベーターを設置した十二階も建設されるなど、「浅草奥山」は、映画、芸能、演劇のメッカ「浅草六区」として発展しました。

浅草は、四百年にわたる一般大衆の憩いの場で



ありますが、それは浅草寺の縁起に象徴される浅草の性格そのものに由来するものであり、浅草の歴史、伝統、文化の独自性をあらわしております。本年は、江戸開府四百年を記念して、10月1日より11月16日まで、浅草寺境内西側の一部をお借りして、「江戸町・奥山風景」江戸の町並みを再現し、商家、職人の実演、見世物小屋、大道芸、水茶屋を開設する他、10月2日から10月26日まで江戸時代、猿若町（現在の浅草六丁目）にあった猿若三座のうち、中村座を「平成中村座」として浅草寺裏の広場に再現し、中村勘九郎丈を座頭とした一座により芝居興行も行います。



「浅草槐の会」の会員各店では、江戸開府四百年を記念して、新名物、新商品を作成し奥山風景に参加致しますので、江戸町と合わせてお楽しみ戴きますよう、御来場お待ち申し上げます。





浅草は中村座のふるさと

中村勘九郎

天保十二年十月に堺町と葺屋町（現中央区日本橋芳町）の辺りにあった芝居小屋が火災で焼け、関係者が再興を願い出たが老中水野忠邦は風俗取締りのうえからも市中に芝居小屋は好ましくないと許可を出さなかっただけでなく、芝居自体を廃止させたかったようです。その意向をもって北町奉行遠山左衛門尉に諮問したところ、江戸の町民のためにはあまり寂しくないところに移転させなくてはならないということで、聖天町西側隣接地の、丹波国園部藩主小出氏下屋敷を買い取り移転させたそうです。

天保十三年七月に市村座、十月四日には中村座の初興行が行われ、その後森田座も幕を開けて猿若三座と言われるようになったのですが、考えてみれば遠山の金さんが

いなければ歌舞伎はなくなっていたんですね。そんなわけで僕は浅草には特別な思いがあるんです。親父の墓も浅草にあるしね。平成中村座は今回で三回目だけど今回始めて観音様の裏で興行をさせて戴くことは本当に光栄なことであり、もし親父が生きていたら絶対出るって言ったでしょうね。これも江戸開府四百年と言う年だからこそ幕府の最初の祈願寺である浅草寺様がお許し戴けたことであり有難いと存じています。

この浅草の皆さんのご支援に答えるためにもいい舞台にしますので、どうぞお誘い合わせの上よろしくお願いいたします。



江戸開府四百年と浅草

●縁の深い江戸幕府と浅草

今年は徳川家康が江戸に幕府を開いてちょうど四百年、浅草でも春からいろいろな催しが行われていますが、何といっても江戸と縁の深い催しとしては、この秋行われる「浅草奥山風景」と「平成中村座」(別ページを参照ください)ではないでしょうか。

浅草と徳川幕府とのつながりの深さは、家康公が一番の幕府祈願所に浅草寺を決めたことから始まっています。これには家康公の大きな計算があったように思われます。浅草寺は開府以前から江戸の地における庶民の信仰が深く、市中で一番人が集まり、心のやすらぐ場所であったようです。そういう場所を祈願所に選ぶことで、江戸庶民の安心感や幕府への信頼感を得ることができたのではないのでしょうか。

●将軍たちと浅草

歴代の将軍たちと浅草はいろいろな縁があります。中でも三代家光公の寄進によるのが重要文化財として現在も残る浅草神社(三社さま)の本殿です。今もそこかしこに三葉葵の紋が残り、権現造りの建築物として代表的なものと言われています。また、浅草寺や五重塔(当時のものはその後焼失)、戦前まで残っていた国宝の一之宮・二之宮・三之宮を寄進したのも家光公であり、浅草寺と最も縁の深い将軍でした。

仲見世の風情の礎ができたのは八代吉宗公の頃、それまで門前町では茶店程度しか許されていなかったものが、大岡越前によって認められ、物販店が並ぶようになりました。ただし、現在の伝法院通りとの角から浅草寺までの間は将軍や身分の高い方がお参りするときには店の屋根を外せるようにし

ておく決まりがあったようです。また、吉宗公は隅田堤(現在の隅田公園)に桜を植樹する命を出し、今も東京の桜見物の名所となっています。

●流行の最先端とシャレの町浅草

浅草にはいろいろな第一号がありますが、外食産業の第一号といわれるのが江戸中期に浅草広小路(現在の雷門前)にできた奈良茶飯の店です。当時は旅先の旅館でしか食事を提供していなかったものを、街場で食事を出して商いを始めたもので、まさに外食産業の第一号です。

浅草は流行を取り入れるのも早く、十代家治公の頃、京都の公家衆の間で流行っていた「投扇興」という遊び(現在も浅草観光連盟により大会が開催されています)をやり始め、一年後には奥山でこれを博打として行って捕らえられた人が出たという記録が残っています。

●江戸三千両の二つが浅草に

幕末に近い頃、江戸市中で一日に千両を売り上げる場所が三か所あるといわれていました。庶民の台所「魚河岸」(当時は日本橋にあった)、庶民の娯楽である芝居小屋「猿若三座」(浅草寺北側、現在の浅草六丁目地域)、そして男性の憩いの場所「新吉原」(現在の千束町地域)。

この三町を指して江戸三千両といわれますが、そのうちの二箇所が浅草にありました。新吉原は明暦の大火の後に人形町から浅草に移され、猿若三座は歌舞伎が禁止されるところを遠山北町奉行に救われてこの地に移設されたものです。

このように、浅草は庶民の街であり、江戸時代からの歴史を刻んだ唯一の繁華街として、現在も多くの人に楽しんでもらっています。



家光公の寄進した権現造りの浅草神社

浅草の風情と人情をお茶の間で!! NHK連続テレビ小説「こころ」



さん登場、これには槐の会の仲間を初めとした多くの浅草の人たちが協力しています。

番組の初めで登場した三社祭(本来は五月の第三土・日)の本社御輿宮入りのシーンでは、十一月末の寒い中かつぎ手として協力した地元青年部三百名と主役の中越典子さんをはじめ小池栄子さん、なぎら健壺さん、モト冬木さんなどの出演者も熱気一杯の撮影で、すばらしいシーンが出来上がりました。なにしろテレビ撮影のためにこんなに本格的に三社祭を再現したのははじめてのことでした。

九月末まで続くこの番組で、きっと私たちの町浅草の風情・人情、そして下町の温もりを感じていただけるのではないでしょう



江戸開府四百年にあたる今年三月三十一日から、浅草と新潟を舞台にした「こころ」がスタートしました。主人公・松永こころは「ちやきちやきの江戸っ子」、実家は浅草で代々続く老舗のうなぎ屋「きよ川」の一人娘という設定です。撮影は昨年末から始まり現在も進行中ですが、もちろん浅草の町のシーンがたく

これからの「こころ」(資料提供NHK)



放送・平成15年3月31日～9月27日(予定)
NHK総合[月～土]午前8時15分～8時30分
ハイビジョン・衛星第2[月～土]午前7時30分～7時45分

こころ(中越典子)が「きよ川」で働き始めたことから、従業員たちは女将の美佐子(伊藤蘭)がリストラを検討していると思いきや、そんな折り、千野(清水由貴子)の姉・小江美(小柳ルミ子)が現れる。かつて千野の実家は料亭だったが小江美の代で店が傾き、逃げ

出した小江美は十年以上行方知れずになっていた。こころは千野との和解をすすめ、互いの胸の内を明かして和解する二人だが、そこに小江美の夫・島田(中原丈雄)が現れる。後日、島田の本心を聞いた小江美は二人でやり直す決心を固め、浅草を去る。

客の回転率を上げるため、美佐子は調理の手順を変えようとする。しかし正野(勝俣州和)は、職人のプライドから美佐子のやり方に納得できず店を飛び出す。娘のこころにさとされた美佐子は、自分が女将としてやっていくことに不安があったことなどを打ち明け、従業員たちと和解する。

夏休みに入り、こころは優太(広田亮平)を連れ、亡き夫の実家で新盆を過ごすために新潟へ向かう。こころは山古志村にすむ父・沢郎(寺尾聡)を訪ね、ぎこちないながらも少しずつ会話を積み重ねる。遅れて新潟にやってきた美佐子は沢郎の家を訪ね、佐緒里(かとうかずこ)との関係を問う。沢郎の本心を知った美佐子は、もう一度やり直そうと考えるが、そこに「佐緒里の父親が倒れた」との知らせが入る……。



A

浅草中央エリア

●...食べる ●...買う ●...その他

B

開

浅草神社

C

都立産業会館

4

卍

卍

浅草寺

二天門

WC

馬道通り

五重塔

宝蔵門

浅草小学校

3

伝法院

弁天堂

22

69

25

24

23

20

19

18

17

16

2

伝法院通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16

1

オレンジ通り

浅草公会堂

WC

34

WC

21

20

19

18

17

16</

浅草東部エリア



東部会員店

40 和装履物 浅乃屋

長命寺



三代将軍家光が鷹狩りの折り腹痛を起こしたが、ここの井戸水を飲んだところおさまったことから長命水と名付けられ、後にその名に因んで長命寺と呼ばれるようになった。現在も、境内には長命水の石組が残っている。弁財天を祀った寺で、江戸時代から続く近くの「長命寺桜餅」は、墨堤の桜の葉を使った当時のヒット商品だった。また、近くの「言問だんご」も下町の名物となっている。(地図P.14-D4)

三囲神社



伝説では中世の創建とされる隅田川対岸の向島にある三囲神社(みめぐりじんじゃ)は、宝井其角の「雨乞いの句碑」をはじめとして多くの句碑があり、俳諧の霊場としても知られている。(地図P.14-D4)

雷門

正しくは「風神雷神門」。天慶5年(942年)武蔵守、平公雅(たいらのきんまさ)によって創建され、当初は駒形堂付近にあったが、鎌倉以降、今の場所に移されいつしか雷門と呼ばれるようになった。

江戸時代の川柳に「門の名でみりゃ風神は居候」などと読まれているが、門の右に風神様、左に雷神様が祀られている。

雷門は江戸時代に3回焼失しており、浮世絵に見る「しん橋」の提灯は寛永7年(1795年)に完成したおりに奉納されたもの。その後、慶応元年(1865年)に焼失し、現在の雷門は昭和35年5月3日に再建されたものである。

(地図P.14-C2)

花の碑



「春のうらの隅田川……」で有名な、武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲による名曲「春」の歌碑。隅田公園内にあり、羽衣の自筆による歌詞が3章まで刻まれている。昭和31年に教え子によって建立された。(地図P.14-C4)

竹屋の渡し



山谷堀にあった船宿「竹屋」の女主人が、対岸の舟を呼んだ「タケヤー」という掛け声の美しさから「竹屋の渡し」と呼ばれた渡しの跡。隅田公園浅草側の北端にあり、別名「隅田川の渡し」「花川戸の渡し」「業平の渡し」などとも呼ばれたという。

(地図P.14-C4)

山の宿の渡し

隅田川の渡しは浅草から対岸の本所・向島に数多く見られたが、「山の宿(しゅく)の渡し」もその一つ。吾妻橋の上流約250mの隅田公園浅草側にあったとされる。渡船創設の年月は不明だが、対岸にある枕橋と浅草を結ぶ渡しとして「枕橋の渡し」とも呼ばれた。対岸の隅田河岸は江戸中期から「墨堤」と呼ばれた行楽地として賑わっていた。四万六千日などのご縁日にはとくに人出が多く、山の宿の渡しも大賑わいだったものと思われる。

(地図P.14-C3)



北部会員店

- 41 和風れすとらん 若
- 42 レストラン にいど・だもおれ
- 43 料亭 都鳥
- 44 すし処 清司

山谷堀



山谷堀はかつての吉原への道筋の一つ。柳橋で猪牙船を仕立てたお大尽は、隅田川を上って今戸橋から山谷堀を抜けて吉原へ通った。現在、堀は埋め立てられたが、堀端の桜は当時の名残を残し、今日も桜の名所として知られている。(地図P.14-C4)

浅草富士浅間神社



毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社(せんげんじんじゃ)は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。(地図P.14-B4)

今戸神社



今戸神社(いまだじんじゃ)は、かつては境内がとても広く、数多くの樹木が茂った格好の散策地だった。その後、関東大震災や戦災で一帯が焼失し、一時はすっかり荒れ果てていたが、昭和46年に本殿を復興し、現在の姿に復活している。社殿の前には、かつて江戸庶民に親しまれた今戸焼の狗犬一対があるが、これは文化文成年間に今戸焼職人たちによって奉納されたものである。境内には浅草名所・七福神の一つである福祿寿が安置されている。(地図P.14-C4)

待乳山聖天



待乳山聖天(まつちやましようてん)は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信仰者が訪れる。昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時を忍ばせる。(地図P.14-C4)

浅草西部エリア

●...食べる ●...買う ●...その他



西部会員店

- 45 洋菓子・喫茶 ナガシマ
- 46 渡辺眼鏡店
- 47 常寿司
- 48 天麩羅 中清
- 49 前田食堂
- 50 演劇・舞踊小道具 すずや
- 51 足袋・祭洋品 めうがや
- 52 料亭 浅草田圃 草津亭
- 53 居酒屋 TAKEYA
- 54 すき焼 浅草今半
- 55 どぜう飯田屋
- 56 中国小菜 龍圓

池波正太郎文庫



合羽橋通りに面した台東区立中央図書館の生涯学習センター内に、池波正太郎記念文庫がある。この文庫は、上野・浅草を故郷とし、江戸の下町を舞台にした「鬼平犯科帳」などの時代小説の傑作を数多く発表した池波正太郎さんの業績や作品を広く伝えるため、池波家や多くの方々の協力により平成13年9月26日に開設された。全著作本・自筆原稿・遺愛品、自筆絵画など、池波正太郎ファンには必見の品々が展示されており、自筆絵画をモチーフとしたポチ袋などの土産物も購入することができる。

浅草文庫・テプコ浅草館



テプコ浅草館内の浅草文庫は、浅草に関する展示や書籍・資料を閲覧できる施設。館内には、無声映画や大衆芸能などの娯楽の殿堂だった浅草に触れることのできる体験空間もある。
(地図P.14-B2)

江戸下町伝統工芸館



ひさご通り内にある江戸下町伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、台東区産業課のホームページで紹介中。<http://www.city.taito.tokyo.jp/taito-co/sangyou/> (地図P.14-B3)

久保田万太郎生誕の地



久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住した。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代にわたって、下町の義理と人情を描写した小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。
(地図P.14-B2)



〈開館時間〉
火～土曜日 午前9時～午後8時、
日曜・祝日 午前9時～午後5時
〈休館日〉月曜日(祝日の場合は翌日)・第三木曜日・年末年始
(地図P.14-A3)

夏(6~8月)の代表的催事

六月(水無月)

◆お富士様の植木市(5月31・6月1日/6月28・29日)

浅間神社(俗にお富士様)の縁日で、元禄の頃に富士山信仰から始まったものです。当初は、6月1日の山開きに合わせて5月晦日・6月1日の両日でしたが、明治以降山開きが7月1日になったことから6月晦日と7月1日の四日間のご縁日となり、近年は5月と6月の最終土・日曜日に行われるようになりました。



柳通りと神社を中心に約350軒の植木屋と200軒の売店が出ますが、この界限は花柳界と呼ばれる地域で浴衣姿の家族づれにまぎれて粋な芸者衆の姿を見かけることもあります。

七月(文月)

◆下町七夕まつり(7月初旬)

昭和通りの上野駅北側から、国際通りの浅草六区までを結ぶかつぱ橋本通り、約1.2Kmの通り一面に七夕飾りが立ち並ぶのが「下町七夕まつり」です。見所は七夕飾りの豪華さで、大玉飾りに竹飾りが65本、ロープで飾りを吊ったものは100組、提灯に及んでは1350個。早い店では一年も前からこつこつと作り始める手作りの七夕飾りが盛大に飾られます。



期間中には「手作り七夕コンクール」も行われ、金賞などを受賞した七夕飾りを身近に見ることができます。また、「愛の短冊」が竹飾りの下に用意されているので、願い事を書き込むことができます。他にもパレード・大道芸・フリーマーケットなどのイベントも盛りだくさんです。

◆四万六千日/ほおずき市(7月9・10日)



下町の風物詩、夏の草市(植木市、朝顔市、ほおずき市)の一つで、この日に浅草寺にお参りすると特に御利益があるといわれる功德日でもあることから境内は正月、三社祭につぐ人出となります。



◆隅田川花火大会(7月26日)

享保年間に始まり、両国の川開きとして250年の伝統を保ってきた花火大会ですが、交通その他の事情により昭和36年を最後に中断しました。それが昭和53年、東京都や沿岸4区の肝いりで隅田川花火大会として復活しました。現在の会場は今戸付近と駒形橋一厩橋間との2会場で、観客も年々多くなり夏の夜空の光の芸術を楽しむ風物詩となっています。

八月(葉月)

◆万霊燈籠供養会(8月15日)

8月15日の「終戦記念日」に営まれるこの法会は、太平洋戦争で亡くなられた戦災者供養のため行われ、現在は幅広くお盆の先祖供養のためにも営まれています。本堂内での法要後、本堂裏の境内地をかがり火で結界し、不動尊のご真言を唱える中、燈籠をお焚き上げします。



◆台東薪能(8月26日)

薪能は室町時代中期に奈良興福寺の神事「薪猿楽」から始まり、能楽の大祖観阿弥によって観賞用の薪能となりました。明治維新時に能は崩壊しましたが、現在の能の先鞭をつけたのは浅草蔵前の舞台での能演で、その縁の地である浅草で昭和55年より台東薪能が行われています。

◆浅草サンバカーニバル(8月30日)

本場のブラジル・リオから、その年の優勝チームを招待して、若者たちが熱狂の夜をすごすのが、真夏の夜の夢、浅草サンバカーニバルです。お祭り好きで浅草を愛しリオ通であった故・伴淳三郎さんと前台東区長内山栄一氏が、意気投合して企画したものです。浅草商店連合会の有志を中心に昭和56年8月29日に第1回浅草サンバカーニバルを成功させました。以後、毎年8月の最終土曜日に開催され、浅草の新しい息吹を示す若者の祭典として定着しています。





南部会員店

- 57 和菓子 龍昇亭 西むら
- 58 シーフードレストラン 月見草
- 59 ロシア料理 マノス
- 60 生花 花鈴
- 61 うなぎ 初小川
- 62 市川とうふ店
- 63 ホテルサンルート浅草
- 64 下町中華食堂なみき亭
- 65 木彫 宗舟
- 66 書道用品 宝研堂
- 67 ゴルフ グリーンジャケット
- 68 屋形船・寿司 駒形

浅草文化観光センター



台東区立浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、これらを広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。浅草散策の休憩地点としても利用できる。トイレ完備。開館時間は、午前9:30から午後8:00まで。(地図P.14-C2)

台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光にこられた方の案内役として「観光ボランティアガイド」の制度を設けています。利用できる人数は、2・3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまなご相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しい内容のお問合せやお申込は、次のところまで。

●台東区観光ボランティアガイド事務局
電話&FAX:03-3842-5599
●ホームページ
<http://www.tctv.ne.jp/kankou/>

駒形堂



駒形堂は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。(地図P.14-C2)

はなし塚



田原町駅近くの本法寺境内にある落語にちなんだ珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の例を弔うために建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。(地図P.14-B2)

岡崎屋勘六(勘亭流元祖)の墓



西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六(文化2年2月3日に59歳で没)の墓がある。勘六は、延享3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といい、安永8年に中村座新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字(勘亭流)が主流となったという。(地図P.14-B2)

浅草槐の會・マップリスト

地図内番号 店名 通り名 分類

1 神谷バー(雷門通り)／ビアホール、レストラン、割烹



明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストラン、3階割烹がお勧めです。

地図P6-C1

電話 03-3841-5400

住所 台東区浅草1-1-1 定休日

営業時間 11:30～22:00(火曜日)

URL <http://www.kamiya-bar.com/>



会員店コメント

1 神谷バー(雷門通り)／ビアホール、レストラン、割烹



明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストラン、3階割烹がお勧めです。

地図P16-C1

電話 03-3841-5400

住所 台東区浅草1-1-1

営業時間 11:30～22:00(火曜日)

URL <http://www.kamiya-bar.com/>



2 和泉屋本店(観音通り)／あられ、手焼せんべい、おかき



良質の食材(もち米・うるち米・醤油・天然塩等)を使った、あられ、手焼きせんべい、おかきを製造しています。缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが人気です。

地図P16-C1

電話 03-3841-5501

住所 台東区浅草1-1-4

営業時間 11:00～19:30(木曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/izumiya/>



3 和泉屋分店(観音通り)／あられ、手焼せんべい、おかき



このところ、堅焼の人气が復活しています。天日干しの「厚焼せんべい」。もち米の「風神雷神」。堅焼の定番げんこつ等、リピーターのお客様が増えています。

地図P16-C1

電話 03-3841-3200

住所 台東区浅草1-1-7

営業時間 11:00～19:30(木曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/izumiya/>



4 浅草きびだんご あづま(仲見世通り)／きびだんご

江戸時代、観音様の参道・仲見世で繁昌した門前のきびだんごを再現しております。粋なにいさんと下町娘たちのきびだんご作りの実演もご覧下さい。夏の冷し抹茶(100円)や冬の甘酒(100円)也大評判です。

地図P16-B1

電話 03-3843-0190

住所 台東区浅草1-18-1

営業時間 09:30～19:00

URL <http://www.asakusa-azuma.tokyo.walkerplus.com>

**5 三定(雷門通り)／天ぷら・和食**

創業以来江戸前天ぷらの味を守り百六十余年。胡麻のきいた黒っぽい天ぷらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごとに変わる旬の天ぷらに江戸の粋を御堪能下さい。**地図P16-C1**

電話 03-3841-3200

住所 台東区浅草1-2-2

営業時間 11:30～21:30(無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/sansada/>

**6 熊野屋(観音通り)／諸国名産珍味**

ちょっと昔、よく食べたあの口が曲がるくらい塩辛い紅サケの切身、お茶漬け、お酒にぴったりの塩干ダラ、本場新島の本乾クサヤの干物等々が下町浅草でお求めいただけます。本場大分産の肉厚シイタケも好評です。**地図P16-C1**

電話 03-3841-8690

住所 台東区浅草1-19-10

営業時間 09:00～18:45(無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/kumanoya/>

**7 おもちゃのサワダ(新仲見世通り)／玩具一般**

昔ながらのオモチャヤです。ビー玉・面子・ベーゴマから、今話題のオモチャまで、品数豊富に取り揃えております。お値段もお勉強させて頂いております。皆様の是非の御来店をお待ちしております。

地図P16-C2

電話 03-3842-7367

住所 台東区浅草1-1-11

営業時間 09:30～19:45(水曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/omocha/>



8 こばやし (浅草メトロ通り) / お好み焼き・もんじゃ

当店が自信を持ってお勧めするオリジナル新商品「焼もんじゃ」。お好み焼き?もんじゃ?焼そば?独特な食感を是非お試し下さい。その他、ボリューム満点、豊富なメニューを取り揃えてお待ちしております。

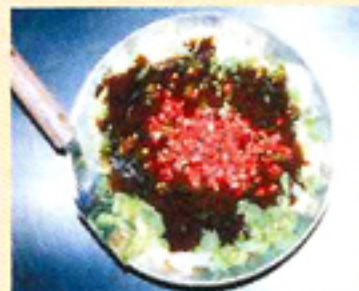
地図P16-C2

電話 03-3847-6733

住所 台東区浅草1-34-4

営業時間 平日11:30~23:00・土日祝11:30~22:00

URL <http://www.monja.co.jp/>

**9 浅草うまいもん あづま (新仲見世通り) / 和食・寿司・甘味**

なつかしい味の下町料理(和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味…)を是非お楽しみ下さい。お2階掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

地図P16-B2

電話 03-3841-0190

住所 台東区浅草1-32-1

営業時間 平日11:00~22:00・土日は21:00まで(無休)

URL <http://www.asakusa-azuma.tokyo.walkerplus.com>

**10 みはる (新仲見世通り) / 婦人服**

新仲見世通り「レディスファッションみはる」は流行を先取りした商品、「みはるヤング館」はヤングLサイズ専門です。また、メトロ通り「婦人服みはる」はお手ごろな値段の商品を数多く取り揃えております。

地図P16-B2

電話 03-3843-6521

住所 台東区浅草1-32-1

営業時間 10:30~20:00(無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/miharu/>

**11 東京モード (新仲見世通り) / 婦人・子供服**

婦人服・子供服から舞台衣装・ダンスウェアまで低価格で豊富に取り揃えております。是非一度ご来店下さい。当店では70歳以上のお客様からは消費税を頂きません。ご会計の前にお申し出下さい。

地図P16-B2

電話 03-3841-3915

住所 台東区浅草1-32-3

営業時間 10:30~19:00・日祝は10:00~19:00(無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/tyomode/>



12 ヒロヤ (新仲見世通り) / 呉服

「突き彫りの万筋の小紋にお洒落な染め帯」「刷毛引きローケツ染めの小紋に弁慶縞の博多帯」…こだわりのある小粋な装いをお楽しみ下さい。豊富な品揃えで必ずやお客様にご満足いただけたらと思っています。

地図P16-B2

電話 03-3843-5291

住所 台東区浅草1-32-3

営業時間 10:00～19:00 (第2、第4火曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/hiroya/>

**13 とんかつの店 松むら (浅草メトロ通り) / とんかつ**

とんかつの専門店である当店では、上質の植物油のみを揚げ油として使用し、さっぱりとして飽きのこないとんかつを提供しております。どうぞ当店自慢の特製ソースで召し上がってみてください。

地図P16-B2

電話 03-3841-3589

住所 台東区浅草1-32-13

営業時間 11:30～20:00・15:00～17:00は休憩 (木曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/matsumura/>

**14 桐生堂 (浅草メトロ通り) / 組紐、和雑貨**

当店は、商品も手作りですが内装も手作りで、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。先日、竹を買って店の外側に取り付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

地図P16-B2

電話 03-3847-2680

住所 台東区浅草1-32-12

営業時間 10:30～19:00 (無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/kiryudo/>

**15 村石電気工事 (仲見世会館そば) / 電気工事業**

下は最近当社が電気工事をした、汐留シーセンタービル41階のFISH BANK (フランス料理店) です。このような工事を手がけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

地図P16-B2

電話 03-3845-2345

住所 台東区浅草1-32-9

営業時間 08:00～17:00 (日曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/muraishi/>



16 千代の家(仲見世柳通り)／炭火もつ焼き

五十年来のタレで炭火焼のもつを御賞味下さい。また、小さい店ならではの手作り、新鮮な肴でお飲物を味わっていただける居酒屋です。 **地図P16-C2**

電話 03-3844-6925

住所 台東区浅草1-35-6

営業時間 平日17:00～24:00・土日16:00～23:00(火曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/chiyonoya/>

**17** カラカラ(仲見世柳通り)／喫茶店

憩いのひととき・あなたのカラカラ。お買い物の途中で一休み。お待ち合わせにもご利用下さい。落ち着いたシックな店内で、ごゆっくり寛いでいただければと思っております。軽食もご用意しております。 **地図P16-C2**

電話 03-3845-0549

住所 台東区浅草1-35-6

営業時間 09:00～19:00(無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/carakala/>

**18** べんがら(浅草メトロ通りと仲見世柳通りの角)／のれん

江戸開府400年に合わせ、「江戸」が感じられる新柄を取りそろえました。その他、柄・サイズも豊富にのれんは約500種類。タペストリーやお土産にぴったりのオリジナル和装小物もございます。 ▼「波頭」¥10,000

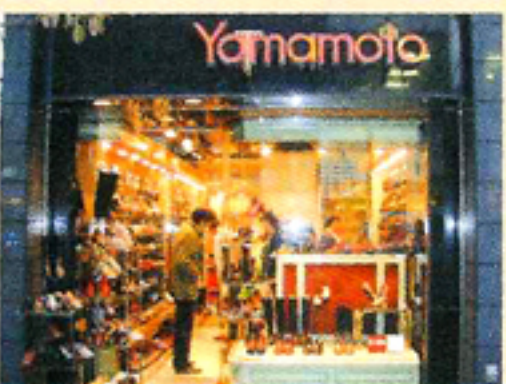
地図P16-B2

電話 03-3844-4656

住所 台東区浅草1-36-8

営業時間 10:00～18:30(不定休)

URL <http://www.tctv.ne.jp/tantan/index.html>

**19** ヤマモト靴店(仲見世柳通り)／紳士、婦人靴

創業50年にわたり海外ブランドのメンズ、レディースシューズを販売しておりましたが、新たにアメリカの有名カジュアルブランド「アバクロンビー&フィッチ」のTシャツ類も輸入販売いたしております。

地図P16-B2

電話 03-3841-6613

住所 台東区浅草1-35-6

営業時間 10:00～19:00(第3木曜日)

URL <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/bengara>



20 名代らーめん 与ろみ屋(仲見世そば)／らーめん

醤油らーめん発祥の地、浅草! 昭和30年代に店主がここで毎日食べていた日本蕎麦屋のらーめんを再現しました。煮干・かつを節のかおり漂う昔ながらの和風らーめんを下町の風情と共に楽しみ下さい。

地図P16-B2

電話 03-3845-4618

住所 台東区浅草1-36-7

営業時間 11:00~20:30(無休)

URL <http://www.tctv.ne.jp/yoroiya/>

**21 和泉屋仲見世店(仲見世通り)／あられ、手焼せんべい、おかき**

約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ(江戸童(わらべ)絵・日本人形・雷門)の手土産が人気です。

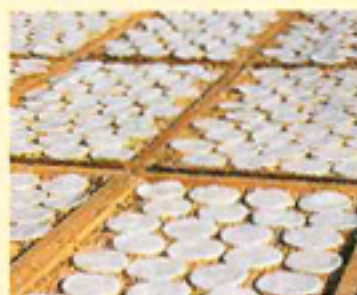
地図P16-B2

電話 03-3844-2687

住所 台東区浅草1-37-1

営業時間 11:00~19:30(木曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/izumiya/>

**22 浅草 鮓よしだ(馬道通り)／寿司**

「こだわらないのにこだわりたい鮓づくり」日本の旬を浅草で…全国津々浦々の旨い魚にこだわり、江戸前の仕事(煮蛤、鮓のづけ等)にこだわり、そしてお店よりお客様にこだわって頂きたい楽しい鮓屋です。

地図P16-C3

電話 03-3845-7557

住所 台東区浅草2-1-14

営業時間 11:30~14:00・17:00~24:00(日曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/yoshida/>

**23 ふじ屋(弁天山側)／てぬぐい**

四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵てぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

地図P16-B3

電話 03-3841-2283

住所 台東区浅草2-2-15

営業時間 10:30~18:30(木曜日)

URL <http://www.yumeshigoto.gr.jp/>



24 浅草ちょうちんもなか(仲見世通り) / アイスモナカ・あんこモナカ

もち米100%の香ばしいモナカと、吟味したテイストのアイスクリームとあんこ、それぞれのハーモニーを味わって下さい!今昔交じりあったおいしいモナカの味をお楽しみいただきたいと思います。

地図P16-B3

電話 03-3842-5060

住所 台東区浅草2-3-1

営業時間 10:00~17:30(不定休)

URL <http://www.cyouchin-monaka.com/>

**25 九重**(仲見世通り) / あげまんじゅう

揚げお菓子シリーズ「夢築」が7月18日のご縁日より発売開始です。毎月1回、18日の限定販売で、リニューアルしたホームページ上で予約受付も可能です。※揚げお菓子「夢築」は店頭販売のみとなります。

地図P16-B3

電話 03-3841-9386

住所 台東区浅草2-3-1

営業時間 09:00~19:00(無休)

URL <http://www.agemanju.co.jp/>

**26 常盤堂雷おこし本舗**(雷門通り) / 雷おこしを主とする菓子

江戸開府四百年を記念して、「お江戸 紅白つつみ餅」を発売しました。おめでたい紅白の道明寺を上品な餡で包みました。店頭では、つつみ餅2ヶにお茶付300円で販売しておりますので、お立寄り下さい。

地図P16-B1

電話 03-3841-5656

住所 台東区浅草1-3-2

営業時間 09:00~21:00(無休)

URL <http://www.tokiwado.com/>

**27 ホテル雷門**(雷門正面左側) / 旅館業

浅草は、古き江戸のなごりを今に伝える庶民の町として多くの方々に愛されてきました。その浅草の玄関とも言われる雷門すぐ隣にある「ホテル雷門」は、どなたにも浅草らしさを感じて頂ける下町らしさで親しまれています。

地図P16-B1

電話 03-3844-1873

住所 台東区浅草1-18-2

営業時間 午前1:00門限・開門午前06:30(無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/hotel/>



28 かね惣(雷門柳小路)／刃物

プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業(明治六年)以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試しください。また、ご婚礼祝い、仏事のお返しなどにもご利用ください。

地図P16-B1

電話 03-3844-1379

住所 台東区浅草1-18-12

営業時間 10:30～19:00(不定休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/kaneso/>

**29** 文扇堂雷門店(雷門柳小路)／舞扇、うちわ等

扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多彩な方にお越し頂いています。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

地図P16-B1

電話 03-3841-0088

住所 台東区浅草1-20-2

営業時間 10:30～18:00(毎月20日すぎの月曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/bunsendo/>

**30** 文扇堂仲見世店(仲見世通り)／舞扇、うちわ等

雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので気楽にお立ち寄りください。

地図P16-B2

電話 03-3844-9711

住所 台東区浅草1-30-1

営業時間 10:30～18:00(毎月20日すぎの月曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/bunsendo/>

**31** 麻鳥(公会堂横通り)／釜めし・串焼き

新潟県下田町より直送の100%コシヒカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島伊達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

地図P16-B2

電話 03-3844-8527

住所 台東区浅草1-31-2

営業時間 11:00～21:00(無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/asadori/>



32 蔵 (公会堂横通り) / 炭火会席

旬の素材を使ったお勧めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカルトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

地図P16-B2

電話 03-3847-1129

住所 台東区浅草1-30-10

営業時間 11:30~22:30 (無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/kura/>

**33 ミツ福ハシモト (新仲見世通り) / 毛皮、革、婦人服**

当社は、大正三年毛皮専門店として浅草千束で創業。昭和二十年に現在地に移転し、毛皮を中心に皮革製品、夏は麻・綿素材、冬はシルク・ウール・カシミア等の天然素材を活かした婦人既製服を扱っています。

地図P16-A2

電話 03-3844-3441

住所 台東区浅草1-30-6

営業時間 10:30~20:00 (不定休)

URL <http://www.mitsufuku.com/>

**34 よのや櫛舗 (伝法院通り) / 黄楊櫛、黄楊製品**

伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつけ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧にアドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

地図P16-A2

電話 03-3844-1755

住所 台東区浅草1-37-10

営業時間 10:00~19:00 (不定休)

URL <http://02.u-page.so-net.ne.jp/bc4/yonoya/>

**35 カミナリヤ (新仲見世通り) / 洋品 (下着)**

浅草で下着を販売して50年!肌着の販売を中心に低価格の良品をサイズ豊富にご提供できますように心がけております。割引サービスもございますので、有効にご利用いただければと考えております。

地図P16-A1

電話 03-3842-5050

住所 台東区浅草1-29-3

営業時間 10:30~20:30 (無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/kaminari/>



四万六千日／ほおずき市

ひまわりくせんち

七月九、十日、浅草寺境内は涼しげな風鈴の音とほおずきの売り声の中、たくさんの方参詣者で埋めつくされます。一年で最も御利益(功徳)の多い日といわれる四万六千日です。

古来、浅草寺のご縁日は毎月十八日となっておりますが、それとは別に中世以降「功徳日」と言われる日が加わりました。その日にお参りすると百日分、千日分に相当する御利益が得られるというもので、この七月十日は中でも最もお得(?)な四万六千日分といわれています。そして、この功徳日に大晦日のように前日から参詣者が押し寄せたことから、次第に九、十日の両日が四万六千日のご縁日となりました。浅草寺ではこの両日に限り「黄色の祈禱札(黄札)」と「雷除け」を授与しています。雷除けとしては、江戸時代には小豆色をした「赤とうもろこし」がこの日に売られていましたが、明治始めに不作の年があり、それ以降、竹串に刺された三角形の「雷除守護」が出されるようになりました。

一方、ほおずき市は二百年近く昔の明和年間に始まった愛宕権現の「地蔵様」のご縁日を由来としますが、いつしか四万六千日の観音様の功徳日に浅草寺境内に盛大に市が立つようになり、「四万六千日の縁日に社前でこの実を鶏呑みにすれば大人は癪の根を切り、子供は虫封じに効がある」と言い伝えられています。

故・桂文楽が嘶のなかで語る「四万六千日、お暑い盛りで御座います」という言葉がありますが、このご縁日は浅草に夏の盛りを知らせる風物詩となっています。四万六千日／ほおずき市と七月



末の隅田川花火大会(今年は七月二十六日)は、浅草の町にもっとも浴衣姿が似合う日。皆さんもぜひ浴衣姿で四百軒のよしず張りの「ほ

おずき屋」と三百軒の売店のなかを、そぞろ歩き、浅草の夏を楽しんでみてはいかがでしょうか。

隅田川花火大会と山開き



恒例行事として花火が打ち上げられるようになりました。

花火大会の会場です。耳にする「たまやー、かぎやー」の掛け声で知られる、玉屋、鍵屋は、江戸時代の花火の製造元で、文化七年(一八一〇年)に鍵屋から暖簾分けした玉屋が登場し、上流を玉屋、下流を鍵屋が受け持ち、競演が始まりました。この花火合戦に観客が称賛を込めて「たまやー、かぎやー」の掛け声を掛けました。

技術が上だったのか、後発への判官びいきか、玉屋の方が人気が高かったようで、「橋の上、玉屋、玉屋の声ばかり、なぜに鍵屋といわぬ情けなし」と歌に詠まれたり、「玉やだと、またまたぬかすわと、鍵や云ひ」と川柳になったり、当時の浮世絵に描かれている花火船も玉屋ばかりだったようです。天保十四年五月十七日に玉屋方から出火して店は全焼、この罪から江戸お構いになり、わずかに三十二年間で玉屋の幕は閉じられてしまいました。玉屋、鍵屋によって盛り立てられた花火は、現在も隅田川花火大会に生きつづけています。

浅草だけでなく東都の夏の風物詩である隅田川花火大会は、享保年間に両国の川開きの際に打ち上げられた花火が起源といわれています。八代將軍吉宗が、前年に起こった大飢饉・疫病による死者の慰霊と悪病退散を祈って、享保十八年(一七七三年)五月二十八日(旧暦)に隅田川において水神祭を挙行し、その際に両国橋畔の料理屋が公許を得て川施餓鬼を行って花火を打ち上げました。後年、五月二十八日から八月二十八日までの三ヶ月間は隅田川に涼み船を出すのを許可されたことから、この日を川開きとし

36 マツモト (新仲見世通り) / カバン・バッグ・サイフ



江戸の心意気を感じてもらおうと、半纏リュックを創りました。お手持ちの布地からのお仕立てを中心にしています。あなただけの世界で一つのオリジナルリュックを作ってみませんか?お仕立代1万円。

地図P16-A1

電話 03-3842-2961
住所 台東区浅草1-21-8
営業時間 10:00~20:30 (不定休)
URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/matsumoto/>



37 一丁目 (雷門柳小路) / お好み焼き



新しい味の発見です!お好み焼きをわさび醤油・ポン酢・抹茶塩などでお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては?当店の材料は全て純国産品です。

地図P16-A1

電話 03-3845-7566
住所 台東区浅草1-21-2
営業時間 平日17:00~23:00・土日祝日11:30~21:30 (月曜日・祭日の場合は火曜日)
URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/icchome/>



38 魚菜 (雷門柳小路) / 和洋居酒屋風レストラン



魚菜では夏季限定メニューをご用意しました。白身魚のソーメン仕立て・鰻の梅肉ソース・冬瓜カニあんかけ・京より直送の引き上げ湯葉の刺身など。今話題の黒糖焼酎・芋・麦・米も取り揃えております。

地図P16-A1

電話 03-3842-1919
住所 台東区浅草1-17-9
営業時間 平日17:00~23:00日曜祝日16:00~22:30 (無休)
URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/uosai/>



39 葵丸進 (雷門通り) / 天麩羅、季節料理、寿司



「旬の肴に天麩羅でちょいと一杯」季節料理に天井・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつけの天麩羅屋はいかがですか。 地図P16-A1

▼上天麩羅定食



電話 03-3841-0110
住所 台東区浅草1-4-4
営業時間 11:00~21:00 (無休)
URL <http://www.aoi-marushin.co.jp/>

40 浅乃屋 (浅草松屋そば) / 和装履物、袋物卸業

江戸開府四百年を記念し、浅草花川戸・履物の老舗「芝山」が、草履や和風傘等を中心にした直営店「浅乃屋」を9月初旬に開店します。サイズに合った草履台と、花緒の色柄をお好みにより、ご調整いたします。

地図P17-B2

電話 03-3841-7114

住所 台東区花川戸1-9-1

営業時間 09:00～17:30 (土日祝日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/shibayama/>

**41 和風れすとらん若 (浅草猿若町町会事務所側) / 洋食レストラン**

江戸の名残りの猿若町の静かな店で、一人でゆっくりお酒を楽しみたい方、カップルや御家族でのお食事会など、12名様くらいまで何名様でも御予約を承っております。お電話をお待ちしております。

地図P18-C1

電話 03-3876-2500

住所 台東区浅草6-20-2

営業時間 17:00～22:00 (不定休のため、要予約)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/waka/>

**42 にいど・だもおれ (浅草猿若町市村座跡) / レストラン**

昔の市村座の跡にあるお店です。夜は新鮮な魚介類のお料理で(活タラバガニ等)、お仲間だけの空間をお楽しみ下さい。

地図P18-C1

電話 03-3874-7561

住所 台東区浅草6-18-13小竹猿若町レジデンス1階

営業時間 ランチ11:00～14:00 デイナー1日1組予約のみ(日祝日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/nido/>

**43 都鳥 (観音裏) / 料亭**

今年は江戸開府四百年、だからこそ江戸の昔を体験してみませんか。花柳界の楽しさをもっと知って頂きたいと、江戸の遊びのコースを考えました。お客様には和服でお越し頂くなど、と一緒に御趣向をお楽しみませんか。地図P18-B1

電話 03-3874-2175

住所 台東区浅草3-23-10

営業時間 18:00～ 要予約(土、日曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/miyakodori/>



44 すし処 清司(浅草観音裏)／寿司

すしは日本の食文化。にぎる人の心がお客様に通ってこそ本物だと思います。特に江戸前の小肌、蛤、鰯は逸品です。鰯はもちろん本まぐろです。一味も二味も違うお寿司を是非ご賞味くださいませ。

地図P18-B1

電話 03-3872-7275

住所 台東区浅草3-22-12

営業時間 18:00～02:00(日曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/seiji/>

**45 ナガシマ(雷門通り)／洋菓子、喫茶**

創業は昭和6年。お勧めは柔らかいスポンジ生地にカスタードクリーム、餡入り生クリームが詰まった「雷む〜ん」。冷凍にして地方発送も承っております。ホームページから御注文いただけます。

地図P19-C1

電話 03-3844-4022

住所 台東区浅草1-5-2

営業時間 10:30～21:00(無休)

URL <http://www.hi-ho.ne.jp/cake/print>

**46 渡辺眼鏡店(ためき通り)／めがね**

創業明治二十年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

地図P19-C1

電話 03-3841-7466

住所 台東区浅草1-16-17

営業時間 09:30～19:00(不定休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/megane/>

**47 常寿司(ためき通り)／寿司**

屋台の鮓屋が提供していた昔懐かしい鮓。その味を、今も変わらず作り続けています。肩肘を張らずに、気軽に江戸前寿司を楽しみたい方、お奨め致します。是非お越し下さい。 地図P19-C1

電話 03-3844-9955

住所 台東区浅草1-15-7

営業時間 11:30～21:00・休憩なし(月曜日)

URL <http://www.5b.biglobe.ne.jp/~sushi/>



48 中清 (オレンジ通り) / 天麩羅

数寄屋造りの離れ座敷で昔から変らぬ味の江戸前天麩羅をごゆっくりご賞味下さいませ。

地図P19-C2

電話 03-3841-4015

住所 台東区浅草1-39-13

営業時間 平日11:30~15:00、16:00~20:00 土日祝日11:30~20:00 (火曜日、第2、第4月曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/nakasei>

**49 前田食堂 (五重塔通り) / 大衆食堂**

観音様や花やしき・木馬館のお帰りに御家族・御友人とお立ち寄り下さい。下町の雰囲気の中、屋台気分で焼きそば・おでんからかつ丼まで、ラムネ・酎ハイもご用意、夏はかき氷でちょっと一息いかがですか。

地図P19-B2

電話 03-3841-5807

住所 台東区浅草2-3-27

営業時間 09:00~17:00 (木曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/maeda/>

**50 すずや (西参道商店街) / 演劇、舞踊小道具**

時代劇や踊りに興味のある方、いろいろな小道具が並んでいます。近くにお出かけの時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

地図P19-B2

電話 03-3844-3798

住所 台東区浅草2-7-13

営業時間 10:00~18:00 (火曜日)

URL <http://www.asakusasuzuya.co.jp/>

**51 めうがや (言問通り) / 足袋、祭用品**

“めうがや”と書いて「みょうがや」。旧仮名で“どぜう”を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

地図P19-B3

電話 03-3841-6440

住所 台東区浅草2-27-12

営業時間 10:00~19:00 (水曜日)

URL <http://www.kodasho.co.jp/>



52 浅草田甫 草津亭 (観音裏言問通り) / 料亭

正月の芝居茶屋から始まり、師走の「おせち料理」まで、移り行く江戸の四季を草津亭がご提案いたします。昼席は5000円から、また、名物の玉子焼や折詰弁当などもデパ地下でお気軽にお買い求めいただけます。

地図P19-B3

電話 03-3841-8236

住所 台東区浅草2-27-10

営業時間 11:30~22:00・入店は19:00まで(年末年始・夏期・月曜不定休)

URL <http://www.kusatsutei.jp>

**53 TAKEYA (浅草ひさご通り) / 居酒屋**

昔からひさご通りは六区興行街から千束吉原に向かう人で賑わう商店街でした。当店はお子様からお年寄りまで、気楽に入れて来て良かったと思われるお店を、従業員一同心がけております。大小予約承ります。

地図P19-B3

電話 03-3841-6555

住所 台東区浅草2-25-5

営業時間 平日17:00~24:00土日12:00~14:30(ランチ)、17:00~24:00

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/takeya/>

**54 浅草今半 (国際通り) / すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理**

近江牛のすき焼一筋で108年。焼くように煮るという調理法で召し上がって頂いており、比内鶏の地玉子と割り下との絶妙な味のハーモニーは格別です。百年牛丼・ステーキ丼は若い方からご好評を頂いております。

地図P19-A2

電話 03-3841-1114

住所 台東区西浅草3-1-12

営業時間 11:30~21:30(12月31日のみ休業)

URL <http://www.asakusaimahan.co.jp/>

**55 どぜう飯田屋 (合羽橋本通り) / どぜう料理**

磨き込まれた簾敷きに
胡坐をかいて どぜう鍋
一刻文豪気分です

地図P19-A2

電話 03-3843-0881

住所 台東区西浅草3-3-2

営業時間 11:30~21:30(水曜日、旗日、物日は前後振替)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/iidaya/>



56 中国小菜 龍圓 (国際通り) / 中華料理

心を入れた手造り料理!食で幸福感を味い「浅草に来て良かった、また来たい」これが、龍圓のモットーです。本格中国料理からデザートに至るまで、心を入れて、お出し致します。

地図P19-A2

電話 03-3844-2581

住所 台東区西浅草3-1-9

営業時間 平日12:00~14:00、17:30~22:00 (月曜日)

URL <http://www.tctv.ne.jp/members/ryuen/>

**57 龍昇亭 西むら (雷門通り) / 和菓子司**

看板の栗むし羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

地図P20-C2

電話 03-3841-0665

住所 台東区雷門2-18-11

営業時間 09:00~20:00 (不定休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/ryushotei/>

**58 月見草 (浅草並木通り) / シーフードレストラン**

魚介類を中心とした旬の食材を取り入れたシーフードレストラン。一番の人気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の中で生きているものをすぐに調理し丸ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリジナルソースをかけてどうぞ。地図P20-C2

電話 03-3841-8949

住所 台東区雷門2-11-8

営業時間 11:30~21:00 (無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/tsukimiso/>

**59 マノス / ロシア風レストラン**

「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・ロールです」。創業以来、作り続けて35年。元祖キャベツ・ロールといえば浅草マノス。料理は良い素材と美味しいものを作るという気持ち!今一度、おた召しあ~れ~!

地図P20-B2

電話 03-3843-8286

住所 台東区雷門2-17-4

営業時間 11:30~22:30ただし平日15:00~16:30準備中(火曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/manos/>



60 花鈴(雷門仲通り)／生花店

浅草の催時に合わせた商品を販売しています。また、お持ちのパソコンからお花の注文が出来ます(<http://www.fsonline.jp>)。御注文の際にはプレミアコード(KBA08900)を是非入力してみてください。

地図P20-B2

電話 03-3845-1187

住所 台東区雷門2-8-4

営業時間 09:00～20:00 日・祝09:00～18:00(無休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/hanasuzu/>

**61** 初小川(雷門仲通り)／鰻蒲焼き

明治40年の創業以来継ぎ足し使っている辛口のタレを使った鰻は、注文を受けてからさばき、蒸してから焼く。江戸前風七輪の炭で焼いた鰻はムダな脂が落ち、身もふっくらやわらかで上品な味わいです。

地図P20-B2

電話 03-3844-2723

住所 台東区雷門2-8-4

営業時間 平日12:00～14:00、17:00～20:00日曜祝日17:00～20:00(不定休)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/hatsuogawa/>

**62** 市川とうふ店(万太郎横町)／豆腐

浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではとくに“おぼろ豆腐”が人気です。水にまったくさらさない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。

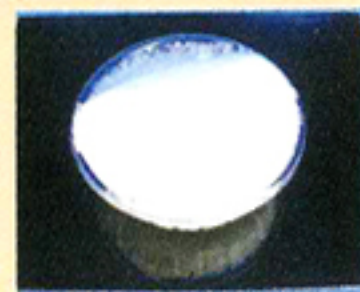
地図P20-B2

電話 03-3841-1357

住所 台東区雷門1-14-3

営業時間 05:00～18:00・13:00～16:00は休憩(水曜日)

URL <http://www.asakusa.gr.jp/nakama/ichikawa/>

**63** ホテルサンルート浅草(田原町駅前・国際通り沿い)／ホテル業

お陰様まで、本年5周年を迎えました。日頃の感謝の気持ちを込めて、キャンペーンを実施しております。抽選でお食事券や人力車乗車券、旅行券などが当たります。この機会にぜひご利用下さい。

地図P20-A2

電話 03-3847-1511

住所 台東区雷門1-8-5

営業時間 24時間営業(無休)

URL <http://www.sunroute-asakusa.co.jp/>



68 駒形(うまや橋たもと隅田川沿い)／屋形船、寿司

江戸開府400年の今年は屋形船に乗って江戸の風情を味わって頂きたいと思います。当店では毎週土日祝は2名様からの乗合船を航行しています。午後5時集合で、お1名様税込み8000円。貸切りは15名様より予約可。 **地図P20-C1**



電話 03-3844-5591

住所 台東区駒形2-1-3

営業時間 屋形船11:30~22:00 寿司11:30~22:00 (屋形船不定休、寿司土曜日)

URL <http://www.bekkoame.ne.jp/ha/komagata/>

69 ネオ薬局(馬道通り)／クスリ

一般薬、保険調剤、健康食品、ヒノキ肌粧品、NOV、WELLA、花王ソフィーナ、4711 Portugalなどを扱っております。お店にない商品はお取り寄せも可能です。ぜひ、お気軽にご相談下さいませ。

地図P16-C3



電話 03-3841-5329

住所 台東区浅草2-1-15

営業時間 9:00~20:00 (日曜・祝日)

URL <http://www.mycitys.co.jp/member/neo/index.html>

編集後記

今回の「浅草槐の会季刊誌vol.7夏秋合併号」は、江戸開府400年を記念して、ボリュームたっぷりの40ページでお届けします。内容も盛りだくさん。1年間の浅草の行事を網羅して紹介していますので、保存版としてぜひご活用下さい。

浅草槐の会では、この季刊誌のほかにもインターネットを使ってさまざまな浅草の情報を発信しています。(右のページをご参照下さい) タイムリーな更新で、役に立つ情報を満載した「浅草槐の会ホームページ」も、活用していただければ幸いです。

http://www.asakusa.gr.jp/

「浅草大百科」

●浅草槐の会のホームページを運営中●



浅草槐の会では、「浅草大百科」と題して、旬の浅草情報を満載したホームページを公開中です。はりきって活動している槐の会の仲間たちのプロフィールやお店の紹介なども充実しています。ぜひ一度アクセスして見てください。

秋(9~11月)の代表的催事

九月(長月)

◆開山会聖天まつり(9月20日)

待乳山聖天は、開山以来千四百有余年を経た聖天信仰の一大霊場で、その佇まいには江戸の情緒を残しています。聖天まつりは、開山の日当たる9月20日に行われるもので、当日は本堂で開山会大法要、献茶の儀式が執り行われ、大勢の参拝客を集めています。また、境内では野点も行われています。



◆彼岸会(9月23日)

お彼岸は、気候もよく太陽が真西に沈むこの時期を修行にあて、太陽の恵みに感謝し五穀豊穡を願う祈りに発しています。浅草寺では、五重塔に霊柩を安置しているご信徒に拝殿を開放し、自由に参拝していただいています。

十月(神無月)

◆奥山風景と平成中村座(10月1日~11月16日)



江戸開府400年である今年は、浅草秋の観光祭に合わせて、浅草寺の西側および北側の地域で奥山風景および平成中村座(10月2日~10月26日)が催されます。(10・11ページ参照)浅草に江戸の雰囲気再現した奥山風景と中村勘九郎丈が率いる一座が熱演を繰り広げる平成中村座。この競艶をぜひお楽しみください。

江戸開府400年である今年は、浅草秋の観光祭に合わせて、浅草寺の西側および北側の地域で奥山風景および平成中村座(10月2日~10月26日)が催されます。(10・11ページ参照)浅草に江戸の雰囲気再現した奥山風景と中村勘九郎丈が率いる一座が熱演を繰り広げる平成中村座。この競艶をぜひお楽しみください。

◆浅草菊花展(10月15日~11月16日)

浅草の菊花展は、昭和31年に菊花の団体である日本国の華会が浅草寺境内で実施したのが始まりです。その後、昭和33年の浅草寺本堂落慶を記念し菊花展の向上を図って浅草菊花会が設立され、現在のような大規模の展示会に発展してきました。本堂前の会場には、



さまざまな形態の菊花や菊人形・花文字などが1000鉢以上も展示され、訪れる人の目を楽しませています。

◆写経供養会(10月28日)

浅草寺では、昭和33年の本堂落慶を機会に、広く「観音経写経」を呼びかけてきました。毎年10月28日には一年分の写経を本堂ご宝前に奉安し「十種供養」という法要をもって供養します。浅草寺では毎年4月~10月まで「写経の会」を伝法院で開いて法話と写経を実修しております。



十一月(霜月)

◆東京時代まつり・白鷺の舞(11月3日)



今でも浅草は江戸の名残を最も色濃く残す町、東京の代表的下町として全世界の人々の人気を博しています。平成元年11月3日から始められた「東京時代まつり」は、東京の歴史と文化の原点は浅草であるという観点から、江戸・東京の歴史絵巻の行列が浅草の町を行進します。さまざまな時代絵巻は、多くの観客を集める催しとなっています。この時代絵巻の一つに白鷺の舞があります。白鷺の舞は古い時代の祭礼行列の中にある「鷺舞」の姿を浅草観光連盟が復興したものです。



◆七五三加持会(11月中)



本堂内陣の観音様のご宝前で、子供さんのすこやかな成長と健康を祈念するお加持を行っております。これは「牛玉宝印」(ごおうほういん)観音宝印を子供の額にあててご本尊の観音様とご縁を結び、そのご慈愛を頂戴するというものです。また、浅草寺に隣接する浅草神社(三社さま)でも、七五三のお参りが行われています。

菊供養会(供華)・金龍の舞



十月十八日に浅草寺で行われる菊供養会は、明治三十年に浅草寺の当時の貫主であった奥田貫昭大僧正の発願で営まれるようになったもので、観音経音誦のもとに終日随時菊供養の加持法楽を行う仏事です。この日には本堂前で金龍の舞も披露されます。

当日は札所前で売られる菊花を本堂で献花すると、既に加持祈祷された下供菊と交換してくれます。これを家

に持ち帰って乾燥させ、枕の中に入れておくと頭痛除け、延命長寿の霊験があるといわれています。

金龍の舞は、昭和三十三年十月本堂完成記念に際し、仏法守護の金鱗の龍が天から降り、御本尊を守護したという浅草観音承応縁起によって創始されたものです。

浅草観音の正しい名称は金龍山浅草寺で、金龍山の山号は浅草観音承応縁起(承応三年)に由来しています。縁起には「十八日、寺辺に一夜にして松千株ほど生ず、三日を過ぎて天より長さ百寸ばかりの金鱗の龍、松のなかに下りしがその後あるところを見ずこれによって金龍山という」とあります。

浅草寺舞保存会発行の「浅草寺舞」しおりによれば、「金龍は長さ十五メートル、重さ八十キロ、これをいなせ半纏、はらがけ、もも引の江戸っ子姿の八名が操作し先頭に蓮華珠が一名、合計九名が一組であります。お囃子は笛、三味線(浅草寺組合芸妓が台車に乗ります)太鼓、鉦、妙八、チャップ、宗盤、ササラで約三十名の要員です。先頭の蓮華珠は観音様を表徴し、金龍はこの観音様の姿に欣喜雀躍して舞うので勇姿華麗な舞であります」と説明されています。



酉の市へ十一月八日、二十日

もともとは農民が秋の収穫を祝い、感謝のしるしに神社に鶏を奉納した「とりまつり」が江戸時代に「酉祭」になり、祭に附随して市が立つようになって「酉の市」と呼ばれるようになりました。そして、神社から農家の実用品として授けた熊手が「かっこむ」「とりこむ」などの縁起と結びついて、商売繁盛を願う催しに変化してきたといわれます。

「酉の市」で有名なのが浅草・千束にある鷺(おおとり)神社ですが、神社の愛称である「おとりさま」がいつしか市の愛称にもなり、現在では「おとりさま」といえば鷺神社の「酉の市」のことを指すほどになっています。「酉の市」は、十一月の酉の日に行われて、一の酉、二の酉と数えますが、昔から三の酉まである年は火事が多いという俗説があります。

当日、神社周辺には縁起ものの熊手を商う業者が二〇〇余り出店し、境内は華やかな熊手と人波で賑わいます。「熊手につけるものは大判・小判・福オカメ・七福神・鶴亀・松竹梅・大福帳・目出度い」というところから魚の鯛、それから巾着、これは入ったお金が逃げないようキュット締めるので、金の鯨は家持ち城持ちになれるよう……

聞いているだけで福が舞い込みそうです。また、熊手に値がつくや「ありがとうございます。それではお客様の商売繁盛、家内安全、交通安全を祈願しまして、ヨーオ！シャシャシャン！シャシャシャン！シャシャシャン！シャシャン！シャシャン！」景気のいい手締め音が境内一杯にあふれます。

浅草に冬を告げるお酉さま、皆様もその活気と元気を味わいにいらっしやいませんか。



冬(12~2月)の代表的催事

十二月(師走)

◆納めの観音、歳の市《羽子板市》



(12月17~19日)

毎年観音様の御縁日である18日の前後を含めた17、18、19日の3日間行われており、もとは正月の飾り物などを中心とした市でした。

今でも観音北側の広場では、しめ飾りなどの卸売りをするお店も立ち並び通常“ガサ市”と呼ばれ、これを小売りする人達が仕入れに來ています。江戸末期より“生まれた子が邪気をはねのけ健やかに育つ市に通じる”との謂れから女兒の出産には必ず羽子板を贈る風習が始まり、今では“羽子板市”と呼ばれるようになりました。

◆除夜の鐘

浅草寺東側に位置する弁天山で信徒108人(百八会)による鐘が打たれ、この鐘と同時に初詣りの善男善女が続々と仲見世を埋めつくしていきます。「花の雲鐘は上野か浅草か」の有名な芭蕉の句碑もここ弁天山にあります。



一月(睦月)



◆浅草観音初詣

除夜の鐘と浅草寺開扉とともに初まる初詣は、正月期間中、表参道である仲見世をはじめ境内は華やいだ人々で埋まります。

◆浅草名所七福神詣り(あさくさなどころしちふくじんまいり)

福德の神として庶民の信仰を集めた七福神めぐりが各地で流行り出したのは江戸時代からと云われており、浅草でも次の寺社が七福神として正月期間中絵馬の授与を行っています。また、色紙に各寺社の御朱印をいただきながら七福神めぐりをするのも、正月を楽しむ浅草界隈の風物詩となっています。

大黒天(浅草寺)、恵比須(浅草神社)、毘沙門天(待乳山聖天)、福祿寿(今戸神社・矢崎神社)、布袋尊(橋場不動尊)、寿老人(石浜神社・鷺神社)、弁財天(吉原神社)



*詳しい場所、住所は期間中各寺社に印刷物がございます。

◆江戸消防記念会・はしご乗り(1月6日)

毎年1月6日、雷門、仲見世、観音堂前で江戸消防記念



会(第三番、四番組)によるはしご乗りが午後1時頃から行われます。これは、江戸消防記念会に所属する鳶頭たちが消防出初式の後、とくに浅草で披露する行事で、近年、通人の間でいろいろな話題になっている行事であります。

そもそも昭和40年頃までは、鳶頭が浅草の各旦那衆の店前で新年のご挨拶としてはしご乗りを披露したものが、アーケードやスペースの問題から観音堂前へと移っていったようです。鳶頭による勇壮なはしご乗りの姿、熟達した技術、浅草初春のもうひとつの風情として是非ご覧になってみてはいかがでしょうか。

◆待乳山聖天・大根祭り(1月7日)

浅草寺の支院にあたる待乳山聖天は、隅田川西岸の丘の上に位置し、西に富士山、東に筑波山を見渡すことのできる眺望から、江戸時代には多くの人を集める景勝の地でした。境内には、聖天さまの働きを表すものとして、大根と巾着の比翼紋が描かれています。この二つの模様は、大根を聖天さまにお供えすると人間の煩惱である怒りの心が沈められ、また、巾着は財宝を表して商売繁盛に通じ、いずれも聖天さまのご利益を象徴するものとしてさまざまなところに刻まれています。大根祭りは毎年1月の7日に、元旦以来ご本尊にお供えされた大根をふろふきに調理してお神酒とともに参拝客にふるまう行事で、これによって聖天さまの徳をいただくことが出来るものとされています。



二月(如月)



◆節分会(2月3日)

節分とは一年の春夏秋冬を分ける言葉で本来年に4回あるはずですが、現在では立春の前日のみをさしています。浅草寺では1時と2時の2回にわたり、信徒の有志が年男となり本堂東側回廊の舞台で、また西側影向堂の舞台では観光連盟主催による豆撒きが古式追儀式の終了後2時半~6時までの間5回に分けて行われています。

◆針供養(2月8日)

観音本堂西側の淡島社で古くから行われており、日頃使い古した針に対し報恩感謝の念を表す行事です。この日には裁縫を休み、針箱の掃除をし、旧針は三宝にのせ供養をし、折れた針は豆腐にさして淡島さまに納めます。現在でも着物や足袋、袋物の仕立てをされている方や、和・洋裁学校の生徒さん達で賑わっています。



歳の瀬

江戸の歳の市(その歳最後の市)は浅草がもつとも古く、一説によると万治元年(一六五九年)に両国橋が初めて架けられた頃から行われていたと言われている。他の月の市とは違い、新しい歳を迎える正月用品が主となり、後に各地でいろいろな市が立つようになって、江戸一番の大都市の賑わいであったという。月日を経るうちに正月用品に羽子板が加わり、他の品々より華やかさが人々の目を引いて押絵羽子板は市の主要商品となり、いつしか市は「羽子板市」と言われるようになった。ものの本によれば、羽子板市は「人より始まって人に終わる」と言われるほどの賑わいであった。

暮れの十七、十八、十九日は、浅草観音様の境内に江戸の情景が展開される。通りから一段高く床を張った「にわか座敷店」が軒を並べ、飾り立てた羽子板には舞台より一段といい男振りの役者衆の顔、顔、顔……。羽子板が今日のように一般に売られるようになる以前は、市が唯一の商いの場。つまり羽子板製作者にとって市は、一年間かけた自慢の腕の見せどころで、私どもの展示場。役者衆の舞台姿を移した羽子板は、一年の舞台の総決算であった。そして同時に、市の日を待ってひいき役者の羽子板を買い求めるのは、江戸っ子の大きな楽しみでもあったのである。

いつの時代からあった習わしか、女の子が生まれた明くる年の正月を「初正月」と言って羽子板を祝って迎え、その羽子板が長じてからはお嫁入り諸道具のお供をするという風習がある。両親、祖父母は品定めの大賑わいだ、当の赤ちゃんは「おまかせ」とばかりにお母さんの腕の中ですよすや、という光景が浅草の歳の市でも見かけられる。こうして選ばれた羽子板は、その家に親から子、



羽子板師 西山鴻月

略歴:本名・西山幸一郎。大正十年浅草生れ。十五歳で押絵羽子板師・倉田雅生氏に弟子入りし、十九歳で独立。戦時中の応召を除いて羽子板作り一筋の道を歩む。東京都知事賞ほか受賞多数。

そして孫へと五十年、八十年伝えられていく。その伝統の重さこそ、作り手がもつとも心しなければならないことである。

(西山鴻月)

除夜詣と初詣

初代中村吉衛門の俳句で、女房も同じ氏子や除夜詣「また、」観音は近づき易し除夜詣(高浜虚子)などのように昭和中期くらいまでは「除夜詣」ということばが残っておりまして。古来、



日本の文化はいわば「日の出、日の入り文化」で、一般には日の出を拜んでからのお詣りを「初詣」と考えられていました。除夜詣は近隣の氏子達が除夜の鐘を聞いて、とくべつ着飾るわけでもなく、いわば綿ぞつき(綿

の衣服、普段着)を着て気軽に地元の氏神様にお詣りに行くことであり、それに対し初詣は蚕(おかいこ)ぞつき、いわば晴れ着を着て日の出を迎えてからお詣りに行くものと、ある意味で区別されてきました。しかし近年、車社会の発展や大晦日夜の交通機関の利便性を含め、除夜の鐘を聞いて少しでも早くお詣りしたいという考えからこの区別もなくなって来たようです。浅草寺では弁天山の除夜の鐘が鳴るまでは仲見世の通行を宝蔵門附近で一時止めて、鐘と同時に寺の開扉を行い初詣の方々をお迎えするようにしています。また、この時から一月七日までの間の「開運厄除御守護」や五日の「牛玉加持会(ごようかじえ)」の日に限り火防盗難除の「牛玉札」などこの時期限定のお札が授与されています。

春(3~5月)の代表的催事

三月<弥生>

◆お堂上げ、お堂下げ(3月中旬頃)

示現会の慶祝行事として平成12年より行われています。浅草神社に祀られた3名の神霊(三体の本社神輿)が、浅草寺ご本尊にお参りすることを意味しています。この際、1トン以上もある三体の宮神輿が本堂階段を昇る様は、荘厳かつ優美で見るものを圧倒します。



◆浅草寺本尊示現会(3月18日)

浅草寺の御本尊・聖観世音菩薩が漁師に網得され、この世に示現された日で、浅草寺では盛大に法要が営まれ、特別に紅い掛紙で包まれた祈祷札“紅札(べにふだ)”が授与されます。



◆金龍の舞(3月18日)

浅草寺の山号である金龍山は、縁起に「十八日寺辺に一夜にして松千株ほど生ず、三日を過ぎて天より長さ百尺ばかりの金鱗の龍、松のなかに下りしが、その後あるところをみず、これによって金龍山という」とあるところから出ています。金龍の舞も、この由来によるもので、昭和33年10月昭和和本堂が落慶した際、浅草観音慶賛会が後生に永く伝える記念行事として創始奉納したものです。



四月<卯月>

◆花まつり(仏生会、4月8日)



お釈迦様の誕生を祝い、午前10時から仏誕図を掛けて法要が始まり、本堂内陣・本堂前などに花御堂を設けて釈迦の誕生仏を安置します。本堂周辺では参拝の人々に甘茶の接待や花の無料配付などが行われます。

◆十三参り(4月13日前後)

「十三参り(じゅうさんまいり)」とは、13歳になった男女が虚空菩薩様にお参りして知恵を授かる風習で、生まれてから十二支が始めて一巡して元に戻ることから、還暦と同様な祝い歳としたものです。浅草寺の本堂では、お参りの子供達に虚空菩薩様のご真言を授け、観音様のご宝印を額に押しつけて無事の成長とご加護を願うお加持をしています。



◆白鷺の舞(4月第2日曜日)



浅草寺の「白鷺の舞」は、慶安5年(1652年)の「浅草寺慶安縁起絵巻」の遷座供養祭礼行列の中にある「鷺舞」の姿を復興したもので、毎年4月第2日曜日と11月3日に奏演される浅草寺奉納舞の一つです。

◆浅草流鏝馬(4月中旬頃)

浅草の流鏝馬には、大変古い歴史があり、江戸時代、浅草神社の正月神事として毎年1月5日神前において実施されていました。流鏝馬とは、馬を馳せながら矢を放つ「やばせうま」から変じたという説や、鏝のついた矢を射ることからきたという説などがあります。現在は小笠原流弓馬術礼法宗家の協力により、古式に則ったやり方で午前11時隅田公園内の特設馬場で執り行われています。



◆泣き相撲(4月下旬)

昭和61年に浅草寺裏に復元された九代目團十郎「暫(しばらく)」の銅像は、鎌倉権五郎という前髪のある豪快で力強い子供姿であり、劇中の「せりふ」にも子供言葉が使われています。子供の健康を願う「泣き相撲」は、この九代目團十郎「暫」に因んで、平成三年から開催されています。



五月<皀月>

◆びんざさら舞(三社祭礼初日一金曜日)

浅草付近の宮戸川で網得された観音像は、現在の駒形橋付近から陸にあがられ、槐の木の下に安置されました。そのおき、草庵(藜堂(あかざどう))を作った十人の千束田圃の百姓衆が、草庵の完成を祝って踊ったのが「びんざさら」の始まりといわれています。三社祭奉納の「びんざさら舞」は、田楽舞(ささら舞)と獅子舞の二つの舞が備わっている全国でも珍しいものです。



◆三社祭(5月第3日曜日を含む金・土・日)



浅草神社は、浅草寺観音像を浅草付近(宮戸川)から網得した漁師、檜前浜成(ひのくまのはまなり)、竹成(たけなり)と土地の識者、土師中知(はじのまつち)の三人を祀るところから、古くは三社権現と称されていました。三社祭の名はこれから出ています。三社祭は神輿渡御が有名で、浅草神社の氏子町会四十四ヶ町の神輿勢揃いが土曜日の午後1時に浅草神社境内で行われ、浅草が祭り一色に染まります。神社神輿の渡御(本社神輿三体一之宮・二之宮・三之宮)は日曜日午前6時に浅草神社境内から担ぎ出され、それぞれ三方向に分かれ氏子各町会を練り歩きます。

本尊示現会とお堂上げお堂下げ

三月十八日は、推古天皇三十六年（六二八年）に浅草寺のご本尊・聖観世音菩薩が宮戸川（現隅田川）からご示現（しげん）された日で、いわば浅草の誕生日です。浅草寺でもこの日を記念し、大法要が行われ、特別に紅い掛け紙を巻いた「紅札」が授与されています。また、境内では縁起に因んだ「金龍の舞」が氏子有志により奉演されます。

こうした浅草発祥の日に関連する行事として、平成十二年から宮神輿本堂奉安（お堂上げお堂下げ）が行われるようになり、浅草の新たな見所の一つとなっています。もともとこのお堂上げお堂下げは、「浅草寺誌」の祭礼の式にも記録の残るもので、浅草神社（三社さま）に祀られた土師中知（はじのまつち）・檜前浜成（ひのくまのはまなり）・竹成（たけなり）の神霊が祀られた三体の本社神輿が、浅草寺のご本尊にお参りする行事です。浅草神社から出発した三体を浅草寺本堂に「お堂上げ」後、一晚本堂に安置し、翌日「お堂下げ」後、神社に還御されるというもので、古来観音祭りとも呼ばれた三社権現の祭礼（現在の三社祭り）の始まりに行われた儀式でした。現在の三社祭りは、陰暦から改暦後の明治五年から五月十七・十八日（現在は五月第三日曜と前日・前々日）に行われるようになりました。

この儀式中に、浅草寺一山式衆による読経と浅草神社宮司祝詞奉上が同時に行われる様は、神仏分離以前の三社祭りの一部を再現したものであります。

平成十五年は三月十五日にお堂上げ、十六日にお堂下げが氏子衆の手によって挙行されました。宮神輿は、お堂下げ後に宝蔵門近くにしばらくの間安置されますので、三社祭りの時のお祭り仕様とは違った風情の三体の宮神輿を間近でご覧になることができます。



一本桜から並木桜へー江戸のお花見ー



平安時代の昔には、花といえば「牡丹」のことだったようですが、江戸時代には花といえば「桜」、パッと散る散り際のよさが武士階級に好まれたようです。当時、江戸で花見といえば、隅田堤・上野・飛鳥山などが名所として有名ですが、そのほとんどは八代將軍徳川吉宗の命によって造られたところでした。

これらの場所が全盛を極める以前の花見は、寺社などにある一本桜を愛でつつ武士や富裕な町人などの文化人が短冊に歌を詠むような、風流を楽しむお花見でした。

花を見て賞観することよりも花見の際の娯楽を楽しむようになったのは、享保年間（一七一六～一七三六年）に八代將軍吉宗が今も残る花見の名所に植樹したのが始まりです。これによって「花より団子」の様相が高まり、「花見」という文化が大衆化していきました。

人々は日中、花見衣裳や仮装をして群遊し、お花見弁当と酒に舌鼓を打ちつつ、歌舞音曲を楽しみました。そして花見客をあてこんだ多くの茶店・屋台が賑わうようになりました。その様子は今日の花見と変わるところがありません。

浅草の花見所として有名な墨堤（ぼくてい）の桜は、隅田川をはさみ、台東・墨田の両区にまたがっています。植樹されてから三百年近かった現在も、墨堤を愛する多くの人々に保護され、桜の名所百選にも選ばれる関東を代表する桜の名所になっています。毎年三月下旬～四月上旬にソメイヨシノが一斉に咲きみだれる姿は壮観です。

江戸時代の浅草では、「桜、柳に猪牙舟で」という花の時期の吉原通いの楽しみ方があったようです。今はそういうわけにはいきませんが、花見の盛況ぶりは相変わらずで、今でも屋形船に乗って船上から桜を眺めるといった楽しみ方が堪能できます。